

みかん

後期摘果で
品質向上を
目指しましょう

果樹林産センター
杉本 悠太郎



今月も、後期摘果や浮皮軽減対策など高品質果実の生産に重要な作業が続きますが、残暑も厳しいので体調管理に留意して作業しましょう。

《着果管理》

9月は、養分の使われ方が果実の肥大成長から果汁蓄積に移り始める時期です。この時期に摘果することで、高い品質向上効果が期待できます。内成り果・樞成り果や外観不良果を中心に摘果しましょう。果梗が太く上を向いているような果実（天成り果）は、9月に摘果すると秋芽が発生するので、10月中旬以降に果梗枝ごと元から剪除してください。こつとして考えると、有葉花摘蕾などで対応する方が翌年の結果母枝も確保でき、効率的だと言えます。

《浮皮軽減対策》

近年、秋季の高温多雨により浮皮の多発が

問題となつています。平成30年産についても気象の影響だけでなく開花が早く着果が多いことから浮皮の発生が懸念されるため、次の対策を行いましょ。

①着果管理

浮皮軽減対策の基本は、「適正な着果管理」と「適期の収穫」です。収穫までに適正葉果比30〜35枚/果に仕上げ、貯蔵用果実であれば7〜8分着色での収穫を徹底してください。

②GP剤

満開130日頃（9月中下旬）にジベレリン液剤1〜3ppm（約1667〜5000倍）にジャスモメート液剤2000倍を混用散布します。浮皮軽減効果は高いですが、着色が遅延するため、初めて使用する際は、営農指導員へ相談してください。

《台風対策》

9月は台風が多く発生します。事前対策として、①防風垣、防風ネット、排水路の点

検・整備②マルチの補強倒伏や枝折れ防止のための支柱立て③かいよう病の発生が心配される品種や園地では、薬剤散布を行います。

事後対策では、①潮風害を受けた場合は早急に樹体への散水（2〜4t/10a）を行い、塩分を洗い流す②枝折れや裂けた部分などは切り取り、接ぎ口ウを塗布します。

《病害虫防除》

温暖化により、病害虫の発生時期が拡大する傾向にあります。園地を良く観察し適期防除に努めましょ。

対象病害虫	薬剤名	倍率	使用基準
黒点病	ペンコゼブ水和剤	500倍	30日〜4回
チャノキイロアザミウマ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日〜3回
ミカンハダニ	ダニコングフロアブル または	4,000倍	前日〜1回
	ダニエモンフロアブル	5,000倍	7日〜1回

※ミカンサビダニが心配される場合はダニ剤をダブルフェースフロアブルに変更する。
※果皮障害軽減を目的にバイカルティ1,000倍を混用散布する。